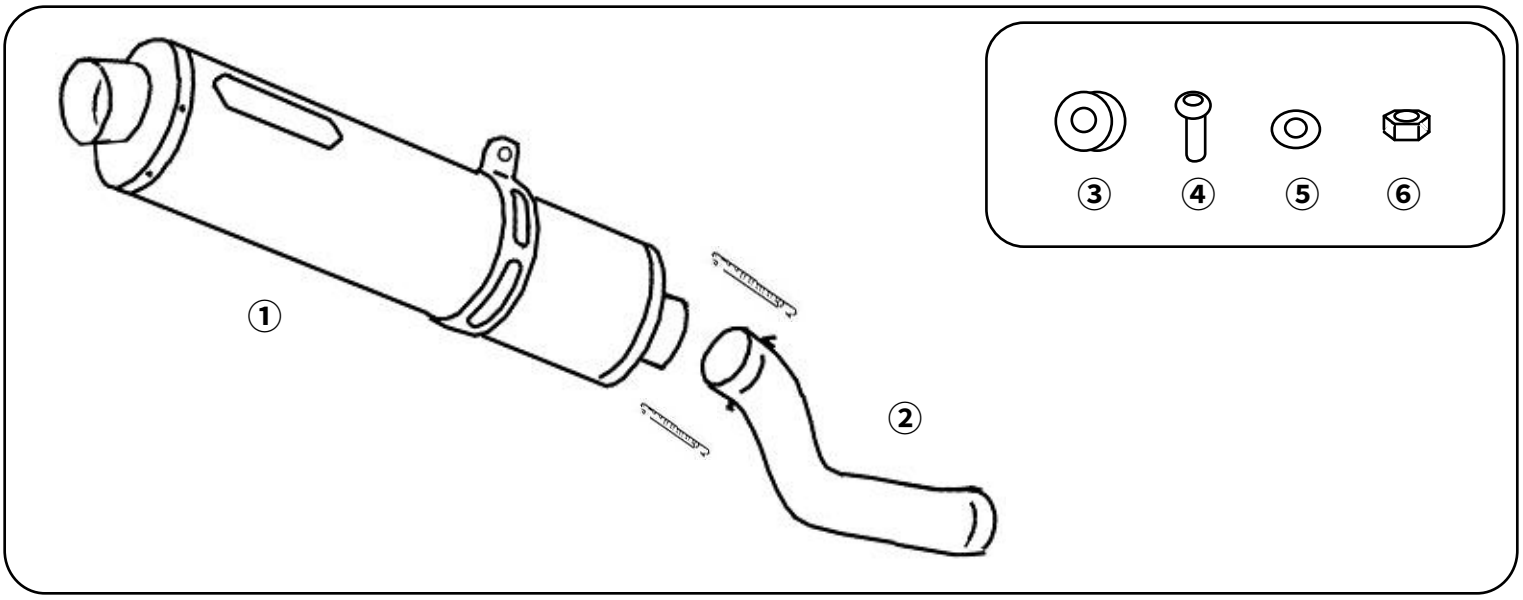
CB1300SF/SB 03-11
(車両型式：BC-SC54/EBL-SC54)
DLC-TITAN S/O

この度は、弊社製品をお買い上げ頂き誠にありがとうございます。
取り付けに関しましては、メーカー発行のサービスマニュアル及び当説明書の指示に従って作業を行って下さい。作業は必ずエンジンが冷えた状態で、且つ車体が安定した状態で行って下さい。このマフラーは、CB1300SF/SB (BC-SC54・EBL-SC54)用となっております。その他の機種（車両型式）に関しては、取り付け確認及び車検対応の確認を行っておりませんのでご注意下さい。取り付け作業に関して、ご不明な点などございましたら、当社までお問い合わせ下さい。



①純正マフラーの取り外し

純正サイレンサーを取り外します。（マフラー・その他純正パーツの脱着作業に関してはメーカー発行のサービスマニュアルの指示に従って下さい。）サイレンサー取り外しの際の純正ボルト・ナット類の一部は当製品取り付けの際に使用しますので無くさない様ご注意下さい。
※純正排気デバイスのケーブルも取り外します。

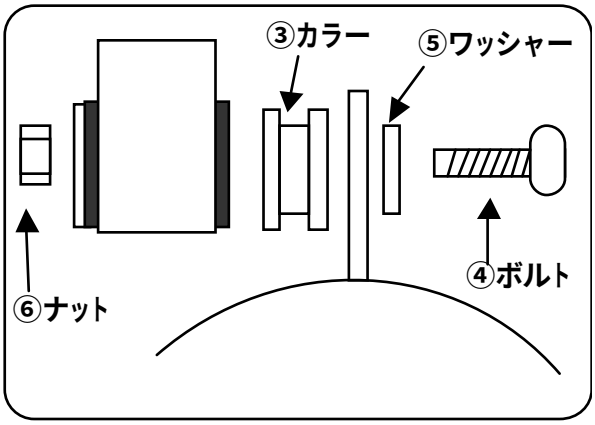
図番	パーツ名	数量
①	サイレンサー	1
②	テールパイプ	1
③	アルミカラー	1
④	ボルト M8-60	1
⑤	ワッシャー M8	1
⑥	ナット M8 セルフロック	1
-	スプリング ラバー付き	2

②テールパイプの取り付け

純正の集合パイプにテールパイプを差し込み、純正のクランプ（バンド）を用いて差込み部を仮留めします。ジョイントガスケットは必ず新品をご使用下さい。

③サイレンサーの取付け

サイレンサーをテールパイプに差し込み、スプリングを掛けます。
次に付属のボルト/ワッシャー/カラー/ナットを用いて純正ブラケット部にサイレンサーを仮留めします。サイレンサーとテールパイプ双方のスプリングフックの位置関係を参考にテールパイプの位置を調整して下さい。
マフラー各部に無理が掛かっていない事、車体各部と干渉がなくサイレンサーが揺れた場合もクリアランスがある事を確認し、必要があれば調整を行ってください。その後、仮留めしたボルトナット及びジョイントパイプ部のクランプを本締めします。各部の締め込み具合により車体とのクリアランスが変化する場合がありますので、注意しながら作業を行って下さい。



※各差込み部には排気漏れ防止の為、シリコンボンド等を薄く塗布する事をお勧めします。
※スプリングはペンチ等を用いて作業すると折損の原因になりますので、必ずスプリングフック等をご使用下さい。

④最終確認

以上で作業は終了です。マフラーに付着した汚れをよく拭き取った上でエンジンを始動し、排気漏れ等がない事を確認し、必要があれば修正を行って下さい。

⑤セッティングについて

このマフラーはすべてスタンダードの状態で性能を発揮するよう設計されておりますので、基本的にセッティングは不要です。(より突き詰めてセッティングを行う事でより良い結果を得られる場合はございます)
又、アクセルを戻した際に起こるアフターファイヤーが純正マフラーに比べて目立つ場合がありますが、これは車両の吸排気系が排ガス浄化の目的で積極的にマフラー内で二次燃焼を起こす仕組みになっている為であり、特に不具合等の心配はございません。(純正マフラーはサイレンサー内に壁が多い構造の為アフターファイヤーが目立ちませんが、純正マフラーでも同様に発生しています。)

■排ガス規制に関して
・BC-SC54 ：純正マフラーに触媒が使用されておりませんので、車検時に排ガス試験成績書は必要ありません。
・EBL-SC54 ：純正マフラーに触媒が使用されていますが、このマフラーは純正触媒を取り外しませんので、
車検時に排ガス試験成績書は必要ありません。

●グラスウール(消音材)は消耗品です。主な消耗の例としては、「排気圧によるグラスウールの飛散」、「カーボン(スス)の堆積による目詰まり」、「水分を含む事による消音能力の低下」、等があり、消耗の進み方は走り方や環境によって大幅に変わります。グラスウールの飛散はほぼ使用期間に比例しますが、その他のケースは使用状況によってはごく短期間で発生する場合もあります。主な原因は吸気系/点火系の不具合や乗り方によるカブリ症状から起こるカーボンの堆積、雨水や燃焼時の水分が排出されずにいる事から起こる水分の滞留などです。カーボンの発生は定期的なメンテナンスやカブらせない乗り方を意識する事で防ぐ事ができ、サイレンサー内に一時的に溜まった水分は、高回転域を使用する事で蒸発→排出されますので、定期的に適度に回して乗る事で解消する事ができます。(スピード違反を推奨するものではありません。安全に法令遵守の範囲でお願いします。)
グラスウールが消耗した状態での走行は周囲の迷惑になるだけでなく、マフラー及び車両の故障に繋がる場合がありますので、音量の増加等、グラスウール消耗の症状が表れた際はサイレンサーのオーバーホールサービス(有償)をご利用ください。
●走行時、走行後は大変マフラーが高温になっています。火傷にお気を付け下さい。
●シンナー等の強力な有機溶剤は本製品には使用しないで下さい。
転倒等に伴う修理に関しましては、状態によりお受けできる場合と出来ない場合がございます。電話・メール等にてお問合せ下さい。
●その他ご不明な点ありましたらお気軽にお問い合わせ下さい。

NOJIMA ENGINEERING
〒513-0825 三重県鈴鹿市住吉町7265-7 TEL:059-378-3505 FAX:059-370-7811
WEB:http://www.nojima-japan.co.jp MAIL:info@nojima-japan.co.jp

NT027SGTD
110613